

R3 教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (図 画 工 作)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自由な発想をもって楽しみながら作品づくりに取り組んでいる。さらに意欲的に取り組むことができる工夫が必要。 ・造形的な技能の向上のための指導が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の創意工夫や想像力を育むような導入、提示を工夫する。 ・例示したりアドバイスしたりして自分らしい表現を引き出す。 ・切る、貼る、折る、塗るなど様々な活動を多く取り入れ、道具の使用に慣れさせる。 ・作業時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現により広がりや深まりをもたせるように助言をする。(補充) ・友達のよいところを見せたり、参考にさせたりして、もっと工夫しようという意欲を喚起させる。(発展) ・いろいろな素材に触れさせる。(発展) ・ICT機器を活用し効果的な導入を工夫する(発展)
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・体全体の感覚を使う工夫をし、意欲をもたせることで感覚を耕し、造形活動を楽しませることができた。 ・個に応じた指導や時間的な保障。 	<ul style="list-style-type: none"> ・想像が広がる声かけや提示の仕方を工夫し、伸び伸びと表現できるようにする。 ・例示したりアドバイスしたりして、自分らしい表現を引き出せるようにする。 ・作業の手順を明示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心をもって描きたい、つくりたいという意欲がわくような教材を準備する。(補充) ・手の働きを発達させるための取り組みを計画的に実施する。(発展) ・ICT機器を活用し効果的な導入を工夫する(発展)
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな材料と出合わせたらよいかの研究。 ・導入と言葉掛けの工夫。 ・関心・意欲は高いが、学習の基本的な習慣が十分身に付いていない。意欲が学習成果に結び付くような指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書の工夫、作業の手順を明示する。 ・造形の創造的な技能が身に付くような多様な道具の整備、材料の準備を進める。 ・作品展示に努め、児童相互の評価をより充実させ、制作意欲を高める。(全学年共通である。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、授業の中で道具の扱い方の習熟を図る。(補充) ・興味のある材料を用いて、つくりたいものをつくる活動を計画する。(補充) ・進度の速い児童、遅い児童に対応できるよう、造形力の基礎になる簡易教材を用意する。(発展) ・ICT機器を活用し効果的な導入を工夫する(発展)

第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく出合う材料にも興味をもって取り組む指導の研究。 ・自分のめあてをもって制作に取り組めるような導入、指導の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・想像が広がり、自分のめあてをもって活動できるような道具や材料の準備を進める。 ・意欲が持続するような言葉掛けと評価、鑑賞活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うまく成形できなかつたり作品が壊れてしまつたりした児童には、休み時間や放課後に時間をつくって対応する。(補充) ・進度に合わせて追求度を深められるような個別指導に留意する。(発展) ・ICT機器を活用し効果的な導入を工夫する(発展)
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなイメージをつくつたり想像したりするような表現を促す導入の工夫や材料の工夫をすると意欲的に制作する。 ・表現の内容や技能の個人差があるので指導・支援の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自信をもって取り組めるような教材・教具の活用と指導中の言葉掛けを考える。 ・評価、鑑賞活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージがわからず想像が広がらない児童には、放課後に時間をつくり個々に対応していく。(補充) ・技術の向上が図れるよう個別指導を充実させる。(補充) ・標準的な進度的見極めに基づいて補助教材や、発展的な教材を活用する。(発展) ・ICT機器を活用し効果的な導入を工夫する(発展)
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な道具と材料との出会いを考慮した題材の工夫。 ・達成感や充実感を強く求める一方で表現に消極的になる児童への対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを豊かにしていくため、写真や作品などを掲示しておく。 ・日常的な鑑賞活動ができるようにする。 ・これまでの学習を生かしながら適度な困難に立ち向かう課題設定をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うまく成形できない児童については、休み時間や放課後を計画的に活用し、個々に対応していく。(補充) ・自分のめあてをつくって制作するよう活動を工夫する。(補充) ・個々の進度や追求を見取り、補助教材や発展的な教材などを提供したりする。(発展) ・ICT機器を活用し効果的な導入を工夫する(発展)